

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 生命科学部 生命科学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。

※：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。

A：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

## (1) 理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	・生命科学科では、「人材の養成に関する目的」を「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的（教育基本法、学校教育法参照）と整合しているか。	・生命科学科の目的 ・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/	・生命科学部および生命科学科の目的は、教育基本法の「第7条 および学校教育法の「第83条」と整合しており、高等教育機関として適切であるといえる。	S		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・生命科学科の目的 ・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/	・生命科学科の目的は、本学の三つの建学の精神である「諸学の基礎は哲学にあり」、「独立自治」、「知徳兼全」を根本としている。また、生命科学科の目指すべき方向性や達成すべき成果をホームページやシラバスで明示し、公表している。	S		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・東洋大学研究者情報データベース	・生命科学科の目的は、これまでの教育・研究実績、教員編成、設備整備・拡充の観点からみて、適切であるといえる。	S		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	・生命科学科の目的 ・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/	・生命科学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「世界的研究・教育拠点」、「幅広い職業人養成」と「社会貢献機能(地域貢献・産学官連携・国際交流等)」の機能を踏まえて、生命科学科の個性・特色を打ち出し設定されている。	S		
2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・『2013履修要覧』 p.17 ・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/	・生命科学科の目的を、『履修要覧』に記載して、学生および教職員に配付している。 ・生命科学科の目的、教育目標は、シラバスやホームページに記載している。	S		
		7 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・新入生アンケート集計表 ・R-Capアンケート集計表 ・卒業生アンケート集計表	・生命科学科の目的の周知方法の有効性については、新入生や在校生に対して春学期に新入生アンケートやR-Capアンケート調査を実施し、その結果を基に改善方法等の調整を図っている。また、卒業時に卒業生アンケートを実施し、同様にその結果を基に改善方法等の調整を図っている。	A		
	社会への公表方法	8 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・『生命科学部・食環境科学部パンフレット』 ・『東洋大学 2013 Guide Book』 ・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/	・大学、学部パンフレットでは、生命科学科の「人材の養成に関する目的」を直接記載はしていないが、目的をより分かりやすい形で記載している。 ・生命科学科の目的は、ホームページに記載している。	S		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか	9 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。			・生命科学科の目的の適切性については、カリキュラム改訂時に学科会議等で議論し、適切性を検証している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。

S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。  
A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。  
B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。  
C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。  
ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

### (3)教員・教員組織

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「東洋大学教員資格審査委員会規程」 ・「生命科学部教員資格審査委員会細則」 ・「生命科学部教員資格審査基準細則」 ・「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」	・「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、「生命科学部教員資格審査委員会細則」、「生命科学部教員資格審査基準細則」、「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」に定め、生命科学部教授会を通して生命科学部の全専任教員に周知している。	S		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・「生命科学部 教務委員会規程」 ・「運営委員会議事録」	・生命科学部教務委員会が、生命科学部や生命学科における教育に関する諸問題に対して、連携・調整を図っている。 ・振倉キャンパス運営委員会で、生命科学部のみならず食環境科学部も含めた連携・調整を図っている。	S		
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。			・教員組織の編成方針は、生命学科として定めていない。	B	
2)学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・「大学基礎データ」表2	・生命学科に割り当てられた専任教員数を充足している。	A		
		※19	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」表2	・生命学科の専任教員の半数は教授となっている。	A		
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・「大学基礎データ」表A	・生命学科教員の各年代の比率は、 —30歳:0% 31—40歳:33% 41—50歳:20% 51—60歳:47% 61— 歳:0% である。昨年度末に61歳以上の3名の教員が退職して新任教員が赴任したこと、かつ全員が1歳年齢があがったことにより51～60歳の割合が35%を越えてしまっている。	B	比率が若干低い年齢層については、次回以降の教員採用時に比率の隔たりが小さくなるよう配慮していく。	
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	・「生命科学部 教授会議事録」	・文章化された編成方針はないが、生命科学部における教員組織の編成については、カリキュラム改訂時に、生命科学部教務委員会、生命科学部教務委員会、生命科学部教授会および生命科学部科会議で議論され、教育理念・教育目標に沿った教員組織が編成されるよう調整を図っている。	A		
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	22	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・「生命科学部教員資格審査基準細則」	・専任・非常勤を問わず、新規の科目を担当する際には、生命科学部教員資格審査委員会に「科目審査」として諮り審議している。	S		

3)教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東洋大学教員資格審査委員会規程」</li> <li>・「生命科学部教員資格審査委員会細則」</li> <li>・「生命科学部教員資格審査基準細則」</li> <li>・「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、「生命科学部教員資格審査委員会細則」、「生命科学部教員資格審査基準細則」、「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」に定め、教授会を通して生命科学部の全専任教員に周知している。</li> </ul>	S		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の採用・昇格は、規程に従って厳格に行われている。</li> </ul>	S		
4)教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『生命科学部報告書:生命科学』</li> <li>・「生命科学部 教授会議事録」</li> <li>・生命科学部シンポジウムの開催</li> <li>・ホームページ(研究者情報)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部の自己点検・活動の一環として、各教員の研究業績、教育実績、社会貢献活動等をの一覧を、『生命科学部報告書:生命科学』に記載している。</li> <li>・日本私立大学連盟主催のFD推進ワークショップ(新任専任教員向け)に新任教員を派遣し、学部内で報告会を実施している。</li> <li>・年2回、生命科学部シンポジウムを開催し、教員の研究、社会貢献活動を公表している。</li> <li>・東洋大学ホームページに研究者情報として公表している。</li> </ul>	S		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員評価制度は、全学的に検討する方向で議論がなされており、これらを見据えて、学部として検討中する必要があり、現段階では、実施に至っていない。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施する必要がある。各活動の評価基準など課題も多く、継続的に検討を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学的な事項のため、実施時期未定</li> </ul>

#### (4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。

S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。

A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」</li> <li>・『2013履修要覧』 p.3</li> <li>・『学生生活ハンドブック』 p.5</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」</li> <li>・『2013履修要覧』 p.19</li> <li>・『学生生活ハンドブック』 p.5</li> <li>・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</li> </ul>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部において、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学科において、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。</li> </ul>	A		
		※28 ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部 ディプロマ・ポリシー</li> <li>・『2013履修要覧』 p.3</li> <li>・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学科 ディプロマ・ポリシー</li> <li>・『2013履修要覧』 p.20</li> <li>・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> <li>・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</li> </ul>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部において、ディプロマ・ポリシーを定めている。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学科において、ディプロマ・ポリシーを定めている。</li> </ul>	A		

1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	教育目標と学位授与方針との整合性	29	教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部 教育目標</li> <li>・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> <li>・『2013履修要覧』 p.3</li> <li>・『学生生活ハンドブック』 p.5</li> <li>・生命科学部 ディプロマ・ポリシー</li> <li>・『2013履修要覧』 p.3</li> <li>・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学科 教育目標</li> <li>・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</li> <li>・『2013履修要覧』 p.19</li> <li>・『学生生活ハンドブック』 p.5</li> <li>・生命科学科 ディプロマ・ポリシー</li> <li>・『2013履修要覧』 p.20</li> <li>・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> <li>・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</li> </ul>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部の教育目標とディプロマ・ポリシー は整合している。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学科の教育目標とディプロマ・ポリシー は整合している。</li> </ul>	A		
	修得すべき学習成果の明示	30	ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部 ディプロマ・ポリシー</li> <li>・『2013履修要覧』 p.3</li> <li>・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学科 ディプロマ・ポリシー</li> <li>・『2013履修要覧』 p.20</li> <li>・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> <li>・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</li> </ul>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部のディプロマ・ポリシー には、修得すべき学習成果が明示されている。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学科のディプロマ・ポリシー には、修得すべき学習成果が明示されている。</li> </ul>	A		

2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科 カリキュラム・ポリシー</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学科 カリキュラム・ポリシー</li> <li>『2013履修要覧』 p.20</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</li> </ul>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科において、カリキュラム・ポリシー を定めている。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学科において、カリキュラム・ポリシー を定めている。</li> </ul>	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科 カリキュラム・ポリシー</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> <li>生命科学部 教育目標</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</li> <li>『2013履修要覧』 p.3</li> <li>『学生生活ハンドブック』 p.5</li> <li>生命科学部 ディプロマ・ポリシー</li> <li>『2013履修要覧』 p.3</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学科 カリキュラム・ポリシー</li> <li>『2013履修要覧』 p.20</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</li> <li>生命科学科 教育目標</li> <li>『2013履修要覧』 p.19</li> <li>『学生生活ハンドブック』 p.5</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</li> <li>生命科学科 ディプロマ・ポリシー</li> <li>『2013履修要覧』 p.20</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</li> </ul>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科のカリキュラム・ポリシー は、教育目標およびディプロマ・ポリシー と整合している。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学科のカリキュラム・ポリシー は、教育目標やディプロマ・ポリシー と整合している。</li> </ul>	A		

	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科 カリキュラム・ポリシー</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> <li>各学科 教育課程表</li> <li>『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47、60-61、70-71、84-85</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学科 カリキュラム・ポリシー</li> <li>『2013履修要覧』 p.20</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</li> <li>生命科学科 教育課程表</li> <li>『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/dlsc/dlsc-curriculum.html</li> </ul>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科では、それぞれのカリキュラム・ポリシーに基づいた、特色ある科目を用意している。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学科では、それぞれのカリキュラム・ポリシーに基づいた、特色ある科目を用意している。</li> </ul>	A		
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学部の教育方針(ポリシー)</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学部の教育方針(ポリシー)</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</li> </ul>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学部および各学科のディプロマ・ポリシーと各学科のカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。また、新学期のガイダンス等で教職員・学生に周知するようにしている。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学科のディプロマ・ポリシーと生命科学科のカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。また、新学期のガイダンス等で教職員・学生に周知するようにしている。</li> </ul>	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学部の教育方針(ポリシー)</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学部の教育方針(ポリシー)</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</li> <li>www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</li> </ul>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学部および各学科のディプロマ・ポリシーと各学科のカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。</li> </ul>	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。		<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標、ディプロマ・ポリシーおよび各学科のカリキュラム・ポリシーの適切性について、生命科学部教授会や学科会議等で検証を行っている。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標、ディプロマ・ポリシー およびカリキュラム・ポリシーの適切性について、生命科学科学科会議等で検証を行っている。</li> </ul>	B		

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	【学部・学科】 ・『2013授業時間割表』	【学部・学科】 ・必修科目は全て開講している。 ・選択必修科目についても、教育課程上の主要な科目はすべて開講している。	B		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47、60-61、70-71、84-85 【学科】 ・生命科学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47 ・生命科学科 科目展開チャート ・『2013履修要覧』 p.23、33	【学部・学科】 ・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を設定している。 ・科目間の授業内容に関する連携が弱い部分も見受けられるが、教員間での連携を推進している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	【学部】 各学科 カリキュラムポリシー ・『2013履修要覧』 ・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html 【学科】 カリキュラムポリシー ・『2013履修要覧』 p.20 ・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html ・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/ ・生命科学科 科目展開チャート ・『2013履修要覧』 p.23、33	【学部・学科】 ・『履修要覧』において、「一般教養的科目」と「専門科目」の位置づけと役割を示し、ガイダンス等で学生に向けて説明を加えている。	A		
	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	【学部】 ・各学科 カリキュラム・ポリシー ・『2013履修要覧』 ・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html 各学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47、60-61、70-71、84-85 【学科】 ・生命科学科 カリキュラム・ポリシー ・『2013履修要覧』 p.20 ・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html ・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/ ・生命科学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47 ・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/dlsc-	【学部・学科】 ・教育課程は、カリキュラム・ポリシー に従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		

2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	<p>【学部】 各学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47、60-61、70-71、84-85 ・該当科目シラバス ・<a href="https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/">https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/</a></p> <p>【学科】 生命科学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47 ・該当科目シラバス ・<a href="https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/">https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/</a></p>	<p>【学部・学科】 ・「学士力」に対応するために、「1.知識・理解」の育成については、科目群「一般教養的教育科目・共通教養科目」の「言語と文化」「文化人類学入門」などの授業科目で対応している。また、「2.汎用的技能」の育成については、科目群「一般教養的教育科目・共通教養科目」の「情報処理基礎」「情報処理演習」などの授業科目で対応している。「3.態度・志向性」の育成については、科目群「一般教養的教育科目・共通教養科目」の「哲学入門」「生命倫理」「科学技術論」や各学科の科目群「専攻領域」の授業科目で対応している。</p>	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮（初年次教育、導入教育の実施等）を行っているか。	<p>【学部】 各学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47、60-61、70-71、84-85 ・該当科目シラバス <a href="https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/">https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/</a></p> <p>【学科】 生命科学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47 ・該当科目シラバス <a href="https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/">https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/</a></p>	<p>【学部・学科】 ・1年次に「ライフサイエンス基礎I」「ライフサイエンス基礎II」を初年次教育として配置し、2年次および3年次に「生命科学英語I、II」を専門教育への導入教育と位置づけて、少人数で授業を実施している。 ・大学での専門教育への導入教育として、科目群「専攻領域・専門科目」に「基礎化学」「基礎生物学」などを1年次に必修科目として配置している。 ・高大連携としては、高校での模擬授業への教員の派遣を行っているほか、高校生理科実験の開催などを行っている。 ・学習支援室を設け、講義内容の理解を深めるために学生をサポートすることで専門教育への導入教育を進めている。</p>	A		

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部 教育目標</li> <li>・<a href="http://www.toyo.ac.jp/site/dlsc/">http://www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</a></li> <li>・『2013履修要覧』 p.3</li> <li>・『学生生活ハンドブック』 p.5</li> <li>・各学科 教育課程表</li> <li>・該当科目 シラバス</li> <li>・<a href="https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/">https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/</a></li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学科 教育目標</li> <li>・<a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a></li> <li>・<a href="http://www.toyo.ac.jp/site/dlsc/">www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</a></li> <li>・『2013履修要覧』 p.19</li> <li>・『学生生活ハンドブック』 p.5</li> <li>・生命科学科 教育課程表</li> <li>・『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47</li> <li>・該当科目 シラバス</li> <li>・<a href="https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/">https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/</a></li> </ul>	<p>【学部・学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・双方向型の授業が望ましい分野・領域については、「情報処理演習」等の演習科目を、技術修得が必要な領域・分野については、「生物学実験」「化学実験」「物理実験」に加えて各学科の設置する実験等の実習・実技科目を適宜、配置している。</li> </ul>	A		

1)教育方法および学習指導は適切か	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	【学部】 『2013履修要覧』 【学科】 『2013履修要覧』 p.25、35、42	【学部・学科】 ・セメスター制を導入しており、履修登録の上限単位数を、1セメスターにつき24単位(1年間で48単位)に定めている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 【学科】 ・生命科学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47 ・該当科目 シラバス ・ <a href="https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/">https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/</a>	【学部・学科】 ・学生が主体的な学習態度を身につけられるように、「生命科学英語I」「生命科学英語II」では、10~20名程度の少人数グループに分かれての講義を実施し、4年次で、少人数によるゼミ(各学科が設置する論議)を必修としている。 ・講義科目の教員一人当たりの学生数を整合性のある数に調整し、円滑な授業ができるよう配慮している。	A		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	【学部】 ・各学科 カリキュラム・ポリシー、教育課程表 ・『2013履修要覧』 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a> 【学科】 ・生命科学科 カリキュラム・ポリシー ・『2013履修要覧』 p.20 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a> ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/dlsc/">www.toyo.ac.jp/site/dlsc/</a> ・生命科学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/dlsc/dlsc-curriculum.html">www.toyo.ac.jp/site/dlsc/dlsc-curriculum.html</a>	【学部・学科】 ・教育方法は、各学科のカリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2)シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	【学部】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・シラバス <a href="https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/">https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/</a> 【学科】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・シラバス ・ <a href="https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/">https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/</a>	【学部・学科】 ・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、各科目の講義の目的・内容、到達目標、講義スケジュールを具体的に記載している。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	【学部・学科】 ・「授業評価アンケート結果(全体集計)」	【学部・学科】 ・「授業評価アンケート」における「シラバスのとおり授業内容が進んでいるか」の回答は、肯定的な回答が多く、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合している。 ・「授業評価アンケート」における「シラバスは履修選択に役立った」の回答は、肯定的な回答が多く、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合している。	A		

3)成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	【学部】 ・「シラバス依頼時の文書」 成績評価 ・『2013履修要覧』p.13-15 シラバス ・ <a href="https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/">https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/</a> 【学科】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・『2013履修要覧』p.13-15 シラバス ・ <a href="https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/">https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/</a>	【学部・学科】 ・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、各科目の「成績評価の方法・基準」を明示している。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 【学科】 ・生命科学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.28-29、38-39、46-47 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/dlsc/dlsc-curriculum.html">www.toyo.ac.jp/site/dlsc/dlsc-curriculum.html</a>	【学部・学科】 ・各授業科目の単位数は、大学設置基準に従い、 講義科目：半期15週で2単位 演習科目：半期15週で2単位 実験・実習科目：半期15週で1単位 卒業論文：4単位 を原則として、適切に設定している。	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	【学部・学科】 ・板倉キャンパス学年暦2013 ・学生生活ハンドブック p.13-36(カレンダー)	【学部・学科】 ・全ての科目について、各学期15回の授業と補講期間、定期試験期間を設定している。	S		

	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	【学部・学科】 ・「東洋大学学則」第43条 ・「東洋大学学生の留学に関する規程」第10条 ・「海外留学制度における単位の認定」『2013履修要覧』 p.132 ・「英語単位認定制度」『2013履修要覧』 p.88-89 ・「聴講制度」 ・『2013履修要覧』 p.90-92	【学部・学科】 ・海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で習得した単位の認定、入学前の学習の単位認定は、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っている。 ・留学時等の単位の認定は、申請時に教授会において学則範囲内で適切性を議論している。	A		
4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。		【学部・学科】 ・生命科学部FD委員会が、年に2回程度、委員会を開催し、学部FDについての研究を行うとともに、学部FD研修会等を実施している。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	【学部・学科】 「生命科学部 FD活動報告書」	【学部・学科】 ・日本私立大学連盟主催のFD推進ワークショップ(新任専任教員向け)に新任教員を派遣し、学部内で報告会を実施している。 ・生命科学部FD委員会が、当該年度の活動を報告書にまとめ、全学FD委員会にて報告を行っている。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	【学部・学科】 ・「授業評価アンケートについて」 ・「授業評価アンケート結果」 ・「授業評価アンケート結果に対する改善方策の提出について」	【学部・学科】 ・授業評価アンケートを毎年実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、各教員にはアンケート結果に対する改善方策を提出してもらい、自由に閲覧できるようにしている。	S		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	東洋大学卒業生アンケート	【学部・学科】 H23年度より大学教育および運営に反映させることを目的として、教育内容・学生生活に関する満足度や学習成果などについてのアンケートを全学的に実施している。	A		
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態になっているか。	【学部】 ・各学科 卒業要件 ・『2013履修要覧』 【学科】 生命科学科卒業要件 ・『2013履修要覧』 p.24, p.34, p.41	【学部・学科】 ・『履修要覧』に卒業要件を明示するとともに、新入生ガイダンスおよび進級時のガイダンス時に繰り返し周知している。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	【学部】 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・『2013履修要覧』 p.3 ・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html 【学科】 ・各学科 卒業要件 ・『2013履修要覧』 【学部】 ・生命科学科 ディプロマ・ポリシー ・『2013履修要覧』 p.20 ・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html ・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/ 生命科学科 卒業要件 ・『2013履修要覧』 p.24, p.34, p.41	【学部・学科】 ・卒業要件は、おおむねディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行っている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。  
 B:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。  
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。  
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。  
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。  
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html 【学科】 ・生命科学科 アドミッション・ポリシー ・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html ・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/	【学部】 ・生命科学部において、アドミッション・ポリシーを定めている。 【学科】 ・生命科学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	【学部】 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html 【学科】 ・生命科学科 アドミッション・ポリシー ・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html ・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/	【学部】 ・生命科学部のアドミッション・ポリシーは、学部、学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。 【学部】 ・生命科学科のアドミッション・ポリシーは、学部、学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。	A		
		61 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	【学部】 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html 【学科】 ・生命科学科 アドミッション・ポリシー ・www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html ・www.toyo.ac.jp/site/dlsc/	【学部】 ・生命科学部のアドミッション・ポリシーは、ホームページにおいて公開している。 【学科】 ・生命科学科のアドミッション・ポリシーは、ホームページにおいて公開している。	A		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	【学部・学科】 ・『入試システムガイド2014』	【学部・学科】 ・各入試方式とも、募集人員、選考方法を、『入試システムガイド2014』にて受験生に明示している。	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	【学部・学科】 ・『入試システムガイド2014』	【学部・学科】 ・一般入試では、「広範囲の学問領域に対して柔軟かつ広角的な思考力を有する人材を受け入れる」という方針に則り、理系・文系にとられない形での複数の選抜試験を実施し、また、推薦入試では、学習意欲ならびに明確な目的意識をもち、コミュニケーション能力や倫理観を有する人物を採用するという方針に則り、小論文および面接を課す試験方法を設定している。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	【学部・学科】 ・「全学入試委員会規程」 ・「生命科学部 教授会規程」	【学部・学科】 ・全学入試委員会、生命科学部教授会、生命科学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を実施しているが、生命科学部入試委員会規定は制定されておらず、必要に応じ、入試委員会で議論している。	B		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	【学部・学科】 ・「大学基礎データ 表4」	【学部・学科】 ・2013年度入試においては、各学科の各入試方式において、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
	66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・『入試システムガイド2014』 【学科】 ・生命科学科 アドミッション・ポリシー ・『入試システムガイド2014』	【学部・学科】 ・入試方式や募集人員、選考方法は、おおむねアドミッション・ポリシーに従って設定している。	A			

3)適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	【学部・学科】 ・「大学基礎データ 表4」	【学部】 ・生命科学部における過去5年の入学者定員に対する入学者比率の平均は1.20であり、1.19を超えているが前年度(1.23)に比べて改善した。 【学科】 ・生命科学科における、過去5年の入学者定員に対する入学者比率は以下の通りであり、平均は1.20である。 2013年度 1.19 2012年度 1.20 2011年度 1.19 2010年度 1.25 2009年度 1.19	C		
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	【学部・学科】 ・「大学基礎データ 表4」	【学部】 ・生命科学部における収容定員に対する在籍学生数比率は、1.19であり、1.20を下回っている。 【学科】 ・生命科学科における収容定員に対する在籍学生数比率は、1.18であり、1.20を下回っている。	A		
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	【学部・学科】 ・「大学基礎データ 表4」	【学部・学科】 ・生命科学部および生命科学科では他大学、他学科からの編入学を認めていない。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	【学部・学科】 ・「生命科学部 入試委員会議事録」 ・「生命科学部 教授会議事録」	【学部・学科】 ・生命科学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学者数策定の分析を行い、生命科学部教授会に報告し、議論している。	A		
4)学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。		【学部・学科】 ・アドミッション・ポリシーの適切性については、過去、定期的な検証を行ってこなかったが、新しいカリキュラム改訂の度に検証を行うべく、現在準備中である。	B		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	【学部・学科】 ・「全学 入試委員会議事録」 ・「生命科学部 入試委員会議事録」	【学部・学科】 ・全学入試委員会および生命科学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証・検討を行っている。	A		

(11)その他

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。  
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。  
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。  
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。  
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。  
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97 教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	・平成25年度生命科学部教育課程表	・新カリキュラムの総合の選択科目に『生命哲学』・『生命倫理』・『科学技術論』などを配置している。さらに、履修登録のガイダンス時に『哲学は東洋大学生のアイデンティティ』であるから積極的に履修するように指導している。	A		
	国際化	98 教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・平成25年度生命科学部教育課程表 ・「学生満足度を高めるための特徴ある教育プログラム」申請書 ・平成25年度教育研究活動改革支援予算に係る予算通知書(学長施策認可通知) ・英会話講座の案内 ・国際サマーキャンプ企画書	・新カリキュラムでは英語教育の一貫性・重層化を図り、『英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ』、『英語スピーチ&プレゼンテーション』、『イングリッシュ・プラクティス』といった新しい講義を設置した。 ・カナダのウィクトリア大学への短期留学(4週間)を学長施策を提案し認可されたため、平成25年度から4年間、継続実施する。今年度の参加者は20名。 ・平成25年度秋学期中に実施する任意参加の英会話講座(週2回)を開講する。学生は空き時間に受講する。参加者は26名。 ・大学院生命科学研究科主催の国際シンポジウム・国際サマーキャンプに学部生も参加するように指導している。	S		
	キャリア教育	99 教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・平成25年度生命科学部教育課程表 ・平成24年度卒業生満足度調査結果 ・生命学科研究所見学報告書	・新カリキュラムの1年次に『キャリアデザインⅠ』、2年次に『キャリアデザインⅡ』、3年次に『生命科学特別講義』を実施する。 ・就職支援室では、就職活動時にほぼ全員と面接し、自己アピールの書き方指導や面接指導を実施している。その結果も相まって、卒業生満足度調査では生命科学部は『就職支援』の満足度が飛び抜けて高い。 ・研究開発職の就業イメージを醸成するため、理化学研究所・海洋研究開発機構等への研究所見学(バスツアー)を実施している。	S		
2)学部・学科独自の評価項目①	(独自に設定してください)	100 (独自に設定してください)					
3)学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	101 (独自に設定してください)					
4)学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102 (独自に設定してください)					
		103					
		104					
		105					

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 生命科学部 応用生物科学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。  
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。  
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。  
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。  
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。  
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している/達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	【学部・学科】 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	【学部】 ・生命科学部において、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。 【学科】 ・応用生物科学科では、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	【学部】 ・生命科学部の目的 【学科】 ・応用生物科学科の目的 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/dabs">http://www.toyo.ac.jp/site/dabs</a>	【学部】 生命科学部の目的は、教育基本法の「第7条 および学校教育法の「第83条」と整合しており、高等教育機関として適切であるといえる。 【学科】 ・応用生物科学科の目的は、教育基本法第7条の「高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」と整合しており、高等教育機関として適切であるといえる。	S		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	【学部・学科】 ・「建学の精神」、「大学の理念」 【学部】 ・生命科学部の目的 【学科】 ・応用生物科学科の目的 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/dabs">http://www.toyo.ac.jp/site/dabs</a>	【学部】 ・生命科学部の目的は、本学の三つの建学の精神である「諸学の基礎は哲学にあり」、「独立自活」、「知徳兼全」を根本としている。また、生命科学部の目指すべき方向性や達成すべき成果をホームページによって明らかにしている。 【学科】 ・応用生物科学科の目的は、本学の三つの建学の精神である「諸学の基礎は哲学にあり」、「独立自活」、「知徳兼全」を根本としている。また、応用生物科学科の目指すべき方向性や達成すべき成果をホームページによって明らかにしている。	S		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	【学部・学科】 ・東洋大学研究者情報データベース	【学部】 ・生命科学部の目的は、これまでの教育・研究実績、教員編成、設備整備・拡充の観点からみて、適切であるといえる。 【学科】 ・1997年度に開設した生命科学部生命科学科での教育・研究活動を基に、これを発展させる形で応用生物科学科の目的を設定しており、様々な観点から見て、適切であると言える。	S		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	【学部】 ・生命科学部の目的 ・『2013履修要覧』 p.3 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html</a> 【学科】 ・応用生物科学科の目的 ・『2013履修要覧』 p.51 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/">http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/</a>	【学部】 ・生命科学部の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「世界的研究・教育拠点」、「幅広い職業人養成」と「社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等)」の機能を踏まえて、生命科学部の個性・特色を打ち出し設定されている。 【学科】 ・応用生物科学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「幅広い職業人養成」と「社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等)」の機能を踏まえて、学科の個性・特色を打ち出すべく設定されている。	S		

2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6	教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態になっているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部の目的</li> <li>・『2013履修要覧』 p.3</li> <li>・<a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html</a></li> <li>・<a href="http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lsc/index.html">http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lsc/index.html</a></li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応用生物科学科の目的</li> <li>・『2013履修要覧』 p.51</li> <li>・<a href="http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/">http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/</a></li> <li>・<a href="http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lsc/dabs/index.html">http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lsc/dabs/index.html</a></li> </ul>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部の目的を、『履修要覧』に記載し、学生および教職員に配付している。</li> <li>・ホームページでは、生命科学部の「人材の養成に関する目的」を直接記載はしていないが、目的を、より分かりやすい形で記載している。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応用生物科学科の目的を、『履修要覧』に記載して、学生および教職員に配付している。</li> <li>・ホームページに、「応用生物科学科の「人材の養成に関する目的」を直接記載している。</li> </ul>	S		
		7	学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度卒業生・平成25年度新入生アンケート</li> </ul>	<p>【学部・学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部の目的の周知方法の有効性については、新入生に対して毎年7月にアンケート調査を行い、その結果を基に改善方法等の調整を図っている。</li> </ul>	B	アンケート結果の集計が済み次第、解析を実施し、課題点の抽出を行い、それらの改善方針について検討、実施していく。	平成25年度
	社会への公表方法	8	受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態になっているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html</a></li> <li>・<a href="http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lsc/index.html">http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lsc/index.html</a></li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<a href="http://www.toyo.ac.jp/lsc/dabs/">http://www.toyo.ac.jp/lsc/dabs/</a></li> </ul>	<p>大学パンフレットの廃止に伴い、社会一般が閲覧できる公的刊行物で学部・学科の目的を記載したものはない。</p> <p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページでは、生命科学部の「人材の養成に関する目的」を直接記載はしていないが、目的を、より分かりやすい形で記載している。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページに、「応用生物科学科の「人材の養成に関する目的」を直接記載している。</li> </ul>	A	学部・学科のホームページについて、より見やすくわかりやすいものにするべく、その構成・修正方法等について、現在学内研究推進委員会において議論中であり、方針がまとまった段階で学部教授会、学科会議等で審議し、対応可能な箇所から順次修正していく。	平成25年度
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9	学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	<p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度応用生物科学科会議事録(5月、6月、7月)</li> </ul>	<p>【学部・学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部・応用生物科学科の目的の適切性については、カリキュラム改訂時に議論し、適切性を検証している。</li> </ul>	A	2013年度から実施している新カリキュラムの課題点を、数年をかけて抽出し、学部学科の目的との間に齟齬がないかを確認しながら、新たなカリキュラム改訂時に、その結果を反映させていく。	平成29年度

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。  
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。  
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。  
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。  
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。  
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

### (3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期	
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「東洋大学教員資格審査委員会規程」 ・「生命科学部教員資格審査委員会細則」 ・「生命科学部教員資格審査基準細則」 ・「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」	・「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、「生命科学部教員資格審査委員会細則」、「生命科学部教員資格審査基準細則」、「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」に定め、生命科学部教授会を通して生命科学部の全専任教員に周知している。	S			
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・「生命科学部 教務委員会規程」	・生命科学部教務委員会が、生命科学部における教育に関する諸問題に対して、連携・調整を図っている。	S			
	教員構成の明確化	16 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	【学部】 ・平成25年度応用生物学科会議事録(7月、9月)	【学部】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていないが、新規教員採用時には資格審査委員会、専任教員採用委員会で議論し、教員組織に偏りが出ないよう配慮し調整を図っている。 【学科】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていない。	【学部】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていないが、新規教員採用時には資格審査委員会、専任教員採用委員会で議論し、教員組織に偏りが出ないよう配慮し調整を図っている。 【学科】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていない。	B	中期計画策定に合わせ、教員組織の編成方針を明確にし、これに基づいて学科における教員の編成方針を定めていくよう学科会議で検討中である。	中期計画策定：平成25年度 学科における編成方針：平成26年度
		17 学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	【学部】 ・平成25年度応用生物学科会議事録(7月、9月)	【学部】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていないが、必要に応じて教務委員会、教授会、各学科で議論し調整を図っている。 【学科】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていない。	【学部】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていないが、必要に応じて教務委員会、教授会、各学科で議論し調整を図っている。 【学科】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていない。	B	中期計画策定に合わせ、教員組織の編成方針を明確にし、これに基づいて学科における教員の編成方針を定めていくよう学科会議で検討中である。	中期計画策定：平成25年度 学科における編成方針：平成26年度
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※ 18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	【学部、学科】 ・平成25年度 教員組織(大学基礎データ表2)	【学部】 ・生命科学部に割り当てられた専任教員数を充足している。 【学科】 ・応用生物学科に割り当てられた専任教員数を充足している。	A			
		※ 19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	【学部、学科】 ・平成25年度 教員組織(大学基礎データ表2)	【学部】 ・生命科学部では、専任教員の半数以上は教授(64.3%)となっている。 【学科】 ・応用生物学科の専任教員の半数は教授(58.3%)となっている。	A			
	20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・平成25年度 教員年齢構成表(5月1日付)	・生命科学部教員の各年代の比率は、 ～30歳：3.2% 31～40歳：32.3% 41～50歳：22.6% 51～60歳：32.3% 61～ 歳：9.7% となっており、いずれも35%を超過していない。	A	比率が若干低い年齢層については、次回以降の教員採用時に比率の隔たりが小さくなるよう配慮していく。			
	21 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	【学部、学科】 ・「生命科学部 教授会議事録」	【学部・学科】 ・生命科学部における教員組織の編成については、カリキュラム改訂時に、生命科学部教務委員会、生命科学部教授会および各学科で議論され、教育理念、教育目標に沿った教員組織が編成されるよう調整を図っている。	A	次回以降の教員採用時に、中期計画において明確にした教員組織の編成方針に従って採用を行っていく。			
	22 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・「生命科学部教員資格審査基準細則」	・専任・非常勤を問わず、新規の科目を担当する際には、生命科学部教員資格審査委員会に「科目審査」として諮り審議している。	S			

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東洋大学教員資格審査委員会規程」</li> <li>・「生命科学部教員資格審査委員会細則」</li> <li>・「生命科学部教員資格審査基準細則」</li> <li>・「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、「生命科学部教員資格審査委員会細則」、「生命科学部教員資格審査基準細則」、「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」に定め、生命科学部教授会を通して生命科学部の全専任教員に周知している。</li> </ul>	S		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生命科学部 教授会議事録」</li> <li>・「生命科学部 教員資格審査報告書」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の採用、昇格は、規程に従って厳格に行われている。</li> </ul>	S		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『生命科学部報告書:生命科学』</li> <li>・「生命科学部 教授会議事録」</li> <li>・生命科学部シンポジウムの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部の自己点検・活動の一環として、各教員の研究業績、教育実績、社会貢献活動等の一覧を、『生命科学部報告書:生命科学』に記載している。</li> <li>・日本私立大学連盟主催のFD推進ワークショップ(新任専任教員向け)に新任教員を派遣し、学部内で報告会を実施している。</li> <li>・年2回、生命科学部シンポジウムを開催し、教員の研究、社会貢献活動を公表している。</li> </ul>	S		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員評価制度は、全学的に検討する方向で議論がなされている。生命科学部ではそれらの結果を受けて、その詳細について検討することとしており、現段階では実施に至っていない。</li> </ul>	C	大学全体の方針決定を待って、教員評価制度の導入について検討を開始する。	全学的な事項のため、実施時期未定。

#### (4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。  
 S:方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。  
 A:おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。  
 B:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。  
 C:方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。  
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に照り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	【学部】 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『2013履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.5 【学科】 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『2013履修要覧』 p.51 ・『学生生活ハンドブック』 p.6	【学部】 ・生命科学部において、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。 【学科】 ・応用生物科学科において、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28	ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a> 【学科】 ・応用生物科学科 ディプロマ・ポリシー <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a>	【学部】 ・生命科学部において、ディプロマ・ポリシーを定めている。 【学科】 ・応用生物科学科において、ディプロマ・ポリシーを定めている。	A	
		29	教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	【学部】 ・生命科学部 教育目標 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html</a> ・『2013履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.5 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html</a> 【学科】 ・応用生物科学科 教育目標 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/">http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/</a> ・『2013履修要覧』 p.51 ・『学生生活ハンドブック』 p.6 ・応用生物科学科 ディプロマ・ポリシー ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a>	【学部】 ・生命科学部の教育目標とディプロマ・ポリシーは整合している。 【学科】 ・応用生物科学科の教育目標とディプロマ・ポリシーは整合している。	A	
	修得すべき学習成果の明示	30	ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	【学部】 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a> 【学科】 ・応用生物科学科 ディプロマ・ポリシー ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/index.html">http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/index.html</a>	【学部】 ・生命科学部のディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されている。 【学科】 ・応用生物科学科のディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されている。	A	

2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科 カリキュラム・ポリシー</li> <li><a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a></li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>応用生物科学科 カリキュラム・ポリシー</li> <li><a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a></li> </ul>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>応用生物科学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。</li> </ul>	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科 カリキュラム・ポリシー</li> <li><a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a></li> <li>生命科学部 教育目標</li> <li><a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html</a></li> <li>『2013履修要覧』 p.3</li> <li>『学生生活ハンドブック』 p.5</li> <li>生命科学部 ディプロマ・ポリシー</li> <li><a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a></li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>応用生物科学科 カリキュラム・ポリシー</li> <li><a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a></li> <li>応用生物科学科 教育目標</li> <li><a href="http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/">http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/</a></li> <li>『2013履修要覧』 p.51</li> <li>『学生生活ハンドブック』 p.6</li> <li>応用生物科学科 ディプロマ・ポリシー</li> <li><a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a></li> </ul>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標およびディプロマ・ポリシーと整合している。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>応用生物科学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合している。</li> </ul>	A		
		33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科 カリキュラム・ポリシー</li> <li><a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a></li> <li>各学科 教育課程表</li> <li>『2013履修要覧』</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>応用生物科学科 カリキュラム・ポリシー</li> <li><a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a></li> <li>応用生物科学科 教育課程表</li> <li>『2013履修要覧』 p.60-61, 70-71</li> </ul>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科では、それぞれのカリキュラム・ポリシーに基づいた、特色ある科目を用意している。</li> </ul> <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>応用生物科学科では、カリキュラム・ポリシーの「実務的スペシャリスト・ベンチャー的技術者を育成」に対応して、科目「知的財産権所有法」「技術倫理」を用意し、これらを選択必修としている。</li> </ul>	A	

3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	【学部、学科】 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a>	【学部】 ・生命科学部および各学科のディプロマ・ポリシーと各学科のカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。また、新学期のガイダンス等で教職員・学生に周知するようにしている。 【学科】 ・応用生物科学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。また、新学期のガイダンス等で教職員・学生に周知するようにしている。	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	【学部、学科】 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a>	【学部】 ・生命科学部および各学科のディプロマ・ポリシーと各学科のカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。 【学科】 ・応用生物科学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	【学科】 ・平成25年度応用生物学科会議議事録(6月)	【学部】 ・教育目標、ディプロマ・ポリシーおよび各学科のカリキュラム・ポリシーの適切性について、生命科学部教授会や学科会議等で検証を行っている。 【学科】 ・教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性について、学科会議等で検証を行っている。	A		

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	【学部・学科】 ・『2013授業時間割表』	【学部・学科】 ・必修科目、選択必修科目はすべて開講している。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 【学科】 ・応用生物科学科 教育課程表 ・応用生物科学科 科目展開チャート p.53-54.63-64 ・『2013履修要覧』	【学部】 ・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を設定しているが、科目間の授業内容に関する連携が弱い部分も見受けられる。 【学科】 ・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を設定しているが、科目間の授業内容に関する連携が弱い部分も見受けられる。	B	関連科目の担当教員間でシラバスの内容について協議する	現在進行中で、次年度の授業に反映させる
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	【学部】 ・『2013履修要覧』 【学科】 ・『2013履修要覧』 p.53-54.63-64	【学部・学科】 ・『履修要覧』において、「一般教養的科目」と「専門科目」の位置づけと役割を、学生に説明している。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	【学部】 ・各学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html ・各学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 【学科】 ・応用生物科学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html ・応用生物科学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.60-61, 70-71	【学部・学科】 ・教育課程は、カリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 ・該当科目 シラバス 【学科】 ・応用生物科学科 教育課程表 ・該当科目 シラバス	【学部・学科】 ・「学士力」に対応するために、「1.知識・理解」の育成については、科目群「基盤教育科目」の「異文化コミュニケーション」「文化人類学入門」などの授業科目で対応している。また、「2.汎用的技能」の育成については、科目群「基盤教育科目」の「情報処理基礎」「情報処理演習」などの授業科目で対応している。「3.態度・志向性」の育成については、科目群「基盤教育科目」の「哲学入門」「生命倫理」「科学技術論」や各学科の科目群「専攻領域」の授業科目で対応している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮（初年次教育、導入教育の実施等）を行っているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 ・該当科目シラバス 【学科】 ・応用生物科学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.60-61, 70-71 ・該当科目シラバス	【学部・学科】 ・1年次に「ライフサイエンス基礎I」「ライフサイエンス基礎II」を初年次教育として配置し、2年次および3年次に「生命科学英語I,II」を専門教育への導入教育と位置づけて、少人数で授業を実施している。 ・大学での専門教育への導入教育として、科目群「専攻領域」に「基礎化学」「基礎生物学」などを1年次に必修科目として配置している。 ・高大連携としては、高校での模擬授業への教員の派遣を行っているほか、高校生理科実験の開催やJSTの支援による高大連携事業を計画している。	A		

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 教育目標 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-outline.html</a> ・『2013履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.5 ・各学科 教育課程表 ・該当科目 シラバス 【学科】 ・応用生物科学科 教育目標 ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/lsc/dabs/index.html">http://www.toyo.ac.jp/lsc/dabs/index.html</a> ・『2013履修要覧』 p.51 ・『学生生活ハンドブック』 p.6 ・応用生物科学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.60-61, 70-71 ・該当科目シラバス	【学部・学科】 ・双方向型の授業が望ましい分野・領域については、「情報処理演習」等の演習科目を、技術修得が必要な領域・分野については、「生物学実験」「化学実験」「物理実験」および各学科の設置する実験等の実習・実技科目を適宜、配置している。	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	【学部】 『2013履修要覧』 【学科】 『2013履修要覧』 p.57,67	【学部・学科】 ・セメスター 制を導入しており、履修登録の上限単位数を、1セメスターにつき24単位(1年間で48単位)に定めている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 『2013履修要覧』 【学科】 ・応用生物科学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.60-61, 70-71	【学部・学科】 ・学生が主体的な学習態度を身につけられるように、「生命科学英語I」「生命科学英語II」では、10~20名程度の少人数グループに分かれての講義を実施し、4年次で、少人数によるゼミ(各学科が設置する輪講)を必修としている。 ・講義科目の教員一人当たりの学生数を整合性のある数に調整し、円滑な授業ができるよう配慮している。	A		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	【学部】 ・各学科 カリキュラム・ポリシー ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a> 【各学科 教育課程表 『2013履修要覧』 【学科】 ・応用生物科学科 カリキュラム・ポリシー ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a> ・応用生物科学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.60-61, 70-71	【学部・学科】 ・教育方法は、各学科のカリキュラム・ポリシー に従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2)シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	【学部】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・ToyoNet-G 【学科】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・ToyoNet-G	【学部・学科】 ・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、各科目の講義の目的・内容、到達目標、講義スケジュールを具体的にToyoNet-Gを介して入力している。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	【学部・学科】 ・「授業評価アンケート結果(全体集計)」	【学部・学科】 ・「授業評価アンケート」における「シラバスのとおり授業内容が進んでいるか」の回答は、肯定的な回答が多く、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合している。 ・「授業評価アンケート」における「シラバスは履修選択に役立った」の回答は、肯定的な回答が多く、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合している。	A		

3)成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	【学部】 ・シラバス依頼時の文書 ・ToyoNet-G 【学科】 ・シラバス依頼時の文書 ・ToyoNet-G	【学部・学科】 ・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、各科目の「成績評価の方法・基準」を明示している。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 『2013履修要覧』 【学科】 ・応用生物科学科 教育課程表 ・『2013履修要覧』 p.60-61, 70-71	【学部・学科】 ・各授業科目の単位数は、大学設置基準に従い、講義科目:半期15周で2単位 演習科目:半期15周で2単位 実験・実習科目:半期15周で1単位 卒業論文:4単位 を原則として、適切に設定している。	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	【学部・学科】 ・「板倉キャンパス学年暦 2013」	【学部・学科】 ・全ての科目について、各学期15回の授業と定期試験を設定している。	A		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	【学部・学科】 ・「東洋大学学則」第43条 ・「東洋大学学生の留学に関する規程」第10条 ・「海外留学制度における単位の認定」 『2013履修要覧』 p.132-134 ・「群馬県内大学単位互換科目」 『2013履修要覧』 p.90-92 ・「英語単位認定制度」 『2013履修要覧』 p.88-89	【学部・学科】 ・海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で習得した単位の認定、入学前の学習の単位認定は、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っている。	A		

4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	【学部・学科】 ・「生命科学部 FD委員会規程」	【学部・学科】 ・生命科学部FD委員会が、年に2回程度、委員会を開催し、学部FDについての研究を行うとともに、学部FD研修会等を実施している。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	【学部・学科】 ・「生命科学部 FD活動報告書」	【学部・学科】 ・日本私立大学連盟主催のFD推進ワークショップ(新任専任教員向け)に新任教員を派遣し、学部内で報告会を実施している。 ・生命科学部FD委員会が、当該年度の活動を報告書にまとめ、全学FD委員会にて報告を行っている。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育目標に沿った成果が上まっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	【学部・学科】 ・「授業評価アンケートについて」 ・「授業評価アンケート結果」 ・「授業評価アンケート結果に対する改善方策の提出について」	【学部・学科】 ・授業評価アンケートを毎年実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、各教員にはアンケート結果に対する改善方策を提出してもらい、自由に閲覧できるようにしている。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	東洋大学卒業生アンケート	【学部・学科】 H23年度より大学教育および運営に反映させることを目的として、教育内容・学生生活に関する満足度や学習成果などについてのアンケートを全学的に実施している。	A		
2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	【学部】 ・『2013履修要覧』 【学科】 ・『2013履修要覧』 p.56,66	【学部・学科】 ・『履修要覧』に卒業要件を明示するとともに、新入生ガイダンスおよび進級時のガイダンス時に繰り返し周知している。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	【学部】 ・生命科学部・各学科 ディプロマ・ポリシー ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a> ・各学科 卒業要件 ・『2013履修要覧』 【学科】 ・応用生物科学科 ディプロマ・ポリシー ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a> ・応用生物科学科 卒業要件 ・『2013履修要覧』 p.55,66	【学部・学科】 ・卒業要件は、ディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行っている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。

S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。

A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

## (5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・応用生物科学科 アドミッション・ポリシー ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a>	・応用生物科学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・応用生物科学科 アドミッション・ポリシー ・ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a>	・応用生物科学科のアドミッション・ポリシーは、学部、学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。	A		
	61 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	・『入学試験要項 2014』 ・応用生物科学科 アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。 <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html</a>	・応用生物科学科のアドミッション・ポリシーは、全学の『入学試験要項』およびホームページにおいて公開している。	A			
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・『入試NAVI 2014』	・各入試方式とも、募集人員、選考方法を、『入試NAVI2014』にて受験生に明示している。	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・『入試NAVI 2014』	・一般入試では、「広範囲の学問領域に対して柔軟かつ広角的な思考力を有する人材を受け入れる」という方針に則り、理系・文系にとらわれない形での複数の選抜試験を実施し、また、推薦入試では、学習意欲ならびに明確な目的意識をもち、コミュニケーション能力や倫理観を有する人物を採用するという方針に則り、小論文および面接を課す試験方法を設定している	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・「全学入試委員会規程」 ・「生命科学部 教授会規程」	・全学入試委員会、生命科学部教授会、生命科学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を実施しているが、生命科学部入試委員会規定は制定されておらず、必要に応じ、入試委員会で議論している。	B		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・「大学基礎データ 表4」	・H25年度入試においては、各学科の各入試方式において、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・応用生物科学科 アドミッション・ポリシー ・『入試NAVI 2014』	・入試方式や募集人員、選考方法は、おおむねアドミッション・ポリシーに従って設定している。	A				

3)適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・「大学基礎データ 表4」 ・平成25年度入試動向(入試種別募集人員・受入予定数・実績)	・応用生物科学科における、過去5年の入学者定員に対する入学者比率は以下の通りであり、平均は1.19である。 2013年度 1.17 2012年度 1.19 2011年度 1.14 2010年度 1.07 2009年度 1.42	A	
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・「大学基礎データ 表4」	・応用生物科学科における収容定員に対する在籍学生数比率は1.15倍となっている。	A	
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	・「大学基礎データ 表4」	・生命科学部では他大学、他学科からの編入学を認めていない。	A	
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・「生命科学部 入試委員会議事録」 ・「生命科学部 教授会議事録」	・生命科学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学者数策定の分析を行い、生命科学部教授会に報告し、議論している。	A	
4)学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。		・アドミッション・ポリシーの適切性については、過去、定期的な検証を行ってこなかった。	B	・新しいカリキュラム改訂の度に検証を行うべく、現在準備中である。
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・「全学 入試委員会議事録」 ・「生命科学部 入試委員会議事録」	・全学入試委員会および生命科学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証・検討を行っている。	A	

(11)その他

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。  
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。  
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。  
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。  
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。  
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97 教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	・『2013履修要覧』 p.52, 58 - 60, 70	カリキュラム・ポリシーに本学の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」を明示するとともに、哲学教育の推進のために2013年度から実施するカリキュラムの「基礎教育科目Ⅱ」に必修分野として「哲学・思想」区分を設け、その中に「井上円了と東洋大学」、「哲学入門」、「スポーツ哲学」のほか、「生命論」、「生命倫理」、「生命哲学」という科目を配している。 また、2012年度までに入学した学生に対しては、「一般教養的教育科目」、「人文」の中に「生命論」、「生命倫理」、「生命哲学」の他、「哲学入門」を配し、哲学教育の推進に努めている。	A	新カリキュラム開始直後であることから、2年程度をかけて、その実効性や課題点などについて追跡調査を行い、その結果をもとに、4年後のカリキュラム改訂時をめぐり、より効果的な教育カリキュラムを策定していく。また、明らかとなった課題点について、カリキュラム改訂を伴わずに対応できるものについては、順次修正を加えていく。	
	国際化	98 教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・『2013履修要覧』 p.60,61	国際化推進のために、全学部生を対象として4月にTOEIC-IPテストを受験させるほか、2013年度からのカリキュラムにおいて、必修科目として「英語Ⅰ・Ⅱ」、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」、選択科目として「TOEIC演習」、「英語スピーチ&プレゼンテーション」、「イングリッシュプラクティス」、「英語上級Ⅰ・Ⅱ」、留学支援科目「SCAT ( Special Course in Advanced TOEFL )Ⅰ・Ⅱ」を配置するとともに、専門分野に関わる英語能力の向上のために、「ライフ・サイエンス基礎Ⅲ」、「生命科学英語」を配置している。また、これらの科目以外にも、「板倉キャンパス 英会話講座」、「海外英語研修プログラム in Canada」を開催している。 これらの英語教育以外にも、「中国語Ⅰ・Ⅱ」、「ハングルⅠ・Ⅱ」、「フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「スペイン語Ⅰ・Ⅱ」を開講することにより、異文化間コミュニケーション能力の向上に努めている。	A	新カリキュラム開始直後であることから、2年程度をかけて、その実効性や課題点などについて追跡調査を行い、その結果をもとに、4年後のカリキュラム改訂時をめぐり、より効果的な教育カリキュラムを策定していく。また、明らかとなった課題点について、カリキュラム改訂を伴わずに対応できるものについては、順次修正を加えていく。	
	キャリア教育	99 教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・『2013履修要覧』 p.60, 61	2013年度から実施の新カリキュラムにおいて、キャリア形成を支援するための科目として「キャリアデザインⅠ(1年生対象)・Ⅱ(2年生対象)」を配置したほか、将来の目標を見つけ、学習意欲やモチベーションを向上させるために新たに「応用生物学序論」を1年生を対象として開講した。また、3年生においては、実社会での活動体験を積ませるべく「実務研修」を正規科目として配置した。また、資格取得についても、学生に対し積極的に奨励しており、中高における教職取得のための科目を設置するほか、バイオ技術者取得のために「ライフサイエンス基礎Ⅰ・Ⅱ」の中で関連項目についての講義を実施している。その他、環境関係、バイオ関係などの学科における専門科目に関連した資格の取得については、各専任教員がそれぞれの専門科目内で、あるいは、各研究室に所属した4年生に対して個別に指導を行っている。	A	新カリキュラム開始直後であることから、2年程度をかけて、その実効性や課題点などについて追跡調査を行い、その結果をもとに、4年後のカリキュラム改訂時をめぐり、より効果的な教育カリキュラムを策定していく。また、明らかとなった課題点について、カリキュラム改訂を伴わずに対応できるものについては、順次修正を加えていく。	
2) 学部・学科独自の評価項目①	自主性	100 教育・研究活動の中で自主性の涵養を推進しているか。	http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lsc/dabs/index.html	学生の自主性を養うために、学生が自ら研究テーマを設定し、関連分野の専任教員の指導の下で研究活動を行う「学生による自主調査研究テーマの推進」を2010年度より実施している。過去2年間の実施の結果、正規開講科目となっていないために研究活動を行う時間が取れないことや、実験スペースが限られていることなど、実際の活動における課題が明らかとなった。このため、2013年度からは、受講科目が比較的少ない3年時秋学期に一部の学生を対象として従来より実施していた仮配属制度を、全3年生を対象として行い、研究実施時間ならびにスペースを確保するように修正している。	A	新カリキュラム開始直後であることから、2年程度をかけて、その実効性や課題点などについて追跡調査を行い、その結果をもとに、4年後のカリキュラム改訂時をめぐり、より効果的な教育カリキュラムを策定していく。また、明らかとなった課題点について、カリキュラム改訂を伴わずに対応できるものについては、順次修正を加えていく。	
3) 学部・学科独自の評価項目②	論理的思考能力・プレゼンテーション能力	101 教育・研究活動の中で論理的思考能力・プレゼンテーション能力の涵養を推進しているか。	http://www.toyo.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate/lsc/dabs/index.html	学生の論理的思考能力、プレゼンテーション能力などを養うために、学部3年生(仮配属した学生)や学部4年生を対象に国内外で開催される学会での発表や参加の促進を図っている。学会発表等については、毎年多くの学生が積極的に参加・発表しており、また低学年の学生の間でも、本制度への関心が高まっており、今後より多くの学生が積極的に学会活動に参加することが予想される。	A	ホームページなどを通じて、本制度についての広報活動を積極的に進めることにより、より多くの学生が学会参加や発表を通じて、論理的思考能力・プレゼンテーション能力を養うことができるようにしていく。	